

令和3年度総合情報基盤センター研究開発報告書

令和4年5月31日

研究代表者	氏名	所属
	百瀬 俊哉	芸術学部 写真・映像メディア学科
研究分担者	豊田 直樹	一ノ瀬 大一
研究協力者	植村 浩太郎	
研究課題	ゼミナールを中心とした学びや学修理解度を可視化する支援ツールに関する研究	
研究開発期間	令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日	
研究の概要		

1. 趣旨

本研究は、体育会系サークル学生（以下、「アスリート学生」という。）における「学業と競技の両立」を効率的に支援するため、「アスリート学生ポートフォリオ」を開発し、アスリート学生自身の学業と競技の両立、自身の成長や自己実現に寄与することを目的とする。

2. 開発の必要性

ポートフォリオ機能については、現行の学生支援・事務情報システム（K'sLife）における新機能として、2019年に導入されたが、「必要な情報が点在しており、入力・確認画面が分かりにくい」「要望や状況に応じた容易なカスタマイズが困難」「経年的な変化の可視化やコメント確認の不足」等の課題が山積されており、この改修に見込まれる費用や今後の効果的な運用を検討した上、開発という結論に達した。

なお、アスリート学生ポートフォリオは、これまで紙媒体で運用していたが、アスリート学生の現状確認及び円滑なフィードバック、コロナ禍における柔軟な対応（遠隔授業）などを、時間や場所を選ばず効果的かつ効率的に運用可能な体制を整備する必要性が増したことや、本開発によって、利用するアスリート学生の更なる拡大、他への転用など、将来的には本学ICT教育研究環境への還元が期待されることも理由として挙げられる。

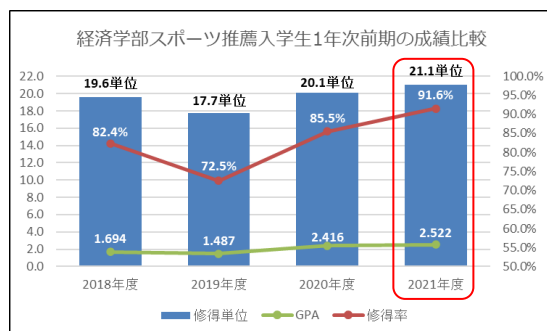
3. 具体的な活用及び開発の方法

経済学部基礎ゼミナール（1年次前期）のスポーツ推薦入学者クラスにおいて、目標設定の手法に関するワークショップ（原田メソッド）をアスリート学生が受講し、学業と競技の両面から目標を設定の上、達成に向けた具体的な行動や現状等をゼミナール時にクラス担任等と確認する。確認結果や対話による気づき、自分自身の振り返り（リフレクション）を通して、次の行動をさらに深化させるスパイラル（循環）を形成することによって、自身の目標達成（自己実現）を可能とする有用なツールとして活用する。

なお、開発は現在利用している紙媒体のポートフォリオを基礎として、学生が入力しやすい画面構成を第一義とし、総合情報基盤センター及び開発業者と連携の上、取り組む。

研究の成果

成果の検証として、過去のアスリート学生と比較したところ、以下のことが確認できた。



所見

- ・左表のとおり、過去3ヵ年と比較すると、修得単位数、GPA、単位修得率の平均値が全て向上
- ・全学部のスポーツ推薦入学者（1年次前期）の平均値は修得単位数21.2単位、GPA2.265、単位修得率89.8%となり、GPA（+0.257）、単位修得率（+1.8%）となった。

以上のことから、本研究開発を活用したアスリート学生の指導・支援については、一定の成果があったと史料する。

以上

※ 提出締切日：令和4年5月31日（火）（期限厳守）